# 「バリアフリーフェスタかながわ2016」の総括

資料１

## １　目的

○　神奈川県バリアフリー街づくり推進県民会議（以下「県民会議」という。）では、障害者、高齢者、妊産婦、乳幼児連れの方などが安心して生活し、自らの意思で自由に移動し、社会に参加できる街づくりを進めている。

○　その一環として、県内の障害者等の関係団体や事業者・ＮＰＯ団体、県民からの公募委員、行政の協働により、「バリアフリーフェスタかながわ2016」（以下「フェスタ」という。）を、相模原市内の商業施設において開催した。

○　このフェスタは、県民会議内に設置された実行委員会が企画・立案したもので、その目的は、平成24年９月に県民会議が取りまとめた提案書を広く県民に周知するとともに、バリアフリーの街を体感してもらうことで、バリアフリーの街づくりに対する理解を深めていただくことにある。

〔企画・立案に当たっての考え方〕

・　県民会議の理念に基づき、県民・事業者・行政が協働で実施する。

・　継続的にフェスタが開催できるよう、持続的かつ安定的な開催形態を意識して準備を進める。

・　県民から広く意見を募るよう、開催会場は誰もが自由に参加できるような場を設定する。

・　当事者団体・事業者団体からの参加を積極的に促す。

・　県民から多くの意見をもらえる形式とする。

・　来場者が気軽・身近に感じられる参加型・体験型の内容を中心としつつ、来場者が「大変だね」「かわいそう」では終わらない、バリアフリーの必要性、支えあいの心を自然と身につけるものとする。

・　ユニバーサルデザインの考え方を踏まえ、来場者の誰もが安全・安心に参加できるように配慮したイベントとする。

・　フェスタ全体で統一的なテーマを設定して、各団体のコーナー運営に取り入れる。

## ２　概要

(1) 日時

平成28年10月23日（日）　10：00～16：30

(2) 場所

アリオ橋本（相模原市緑区大山町１番22号 「橋本駅南口」徒歩５分）

(3) 主催

神奈川県バリアフリー街づくり推進県民会議

構成：学識経験者(4)、障害者団体(7)、関係団体(3)、事業者(8)、公募委員(2) 計24名

(4) 内容

　○　テーマ「災害とバリアフリー社会づくり～私たちにできること～」

○　県民会議構成団体を含む16団体が13コーナーを企画し、運営

○　ステージプログラムを数多く展開

　・メイントークセッション

　　「熊本・東北・神戸から学ぶこと～障がい者の避難生活の現状と取組み～」

参考資料１広報用ちらし、参考資料２トークセッションチラシのとおり

○　スタンプを集めると景品がもらえるスタンプラリーの実施

〔スタンプラリーの達成条件〕

・　コーナー３か所、ステージ１か所以上のスタンプを、スタンプラリー台紙に集める。

・　フロントガーデンのコーナーの中で、必ず１つのスタンプは集めるものとする。

・　上記に加えて、アンケートへの回答を景品引換の達成条件とする。

 (5) 参加者数　※〔　〕は昨年の数字

・　コーナー参加者数　1,830名〔2,054名〕（各団体でカウントした参加者の合計人数）

・　スタンプラリー達成者数　 247名〔 322名〕

## ３　課題分析

　○　各構成団体からのアンケート結果の主な意見の分類分けを行い、課題を抽出した。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 分類 | 内容 |
| １ | 目的・考え方 | ・　フェスタは集大成の場であり、日頃からの活動内で、コンセプトとして、強みや弱みを産官学で作り上げることが必要。・　障がいがある方、関心がある、関心が無いなど様々な方が参加する場であるため、県民・市民への警鐘や啓蒙活動が日頃から不可欠である。・　フェスタの方向性を明確にするためには、全ての出展者が合同で出展するのが望ましい。・　規模の大きさや人数は、成功指標の一つだと思うが全てではないと思う。 |
| ２ | 開催日時・場所 | ・　毎回、同じ場所で開催されているが、他の市町村での実施を検討されたらどうか。・　次回のフェスタ会場は別の場所でやったほうが良い。・　当日の一般参加者が多いところがあれば良い。・　毎年、橋本開催のため、その周辺しか理解が広まっていない。相模原市内の学校の生徒、先生たちの参加がなくて未消化気味。・　会場の適性の問題からアリオ橋本での実施が定着しているが、県の取組みとしては毎回同じ場所での実施は望ましくない。・　橋本だけでなく、神奈川県内を市町村と早めに提携し持ち回りで開催して欲しい。⇒11月25日に開催した第12回県民会議において、来年度のフェスタは、会場を変更することに決定。（※資料２で説明） |
| ３ | 集客・周知 | ・　事前の告知だけでは、参加や関心への意識醸成は難しい。・　誰に、どのように、何を目的として、認知を広める、新たな参加を拡大する等が弱い。・　フェスタ開催前にアリオ橋本のホームページでバリアフリーフェスタのお知らせを見たが、詳細に関する記述がなかった。しっかりした内容を載せるべき。・　メディアを呼ぶイベントにするなら、初期段階で想定して作らないと、取材は入らないと思う。・　フェスタに対し、影響力が大きいメディア・ＳＮＳ等、若い世代の県民の参加を呼びかける仕掛けが弱い。 |
| ４ | 事前準備 | ・　フェスタの場所を考える場合は早めに考える必要がある。・　会議は少なくて済むようにメールでの情報連携を強化すべき。 |
| ５ | 運営体制 | ・　次年度のフェスタの取組みの方向性や具体的な内容、県民会議、参画メンバーの役割等は早めに調整する必要を感じる。・　来場層の目的が買い物であるため、なかなか興味を持ってもらえなかった。そのため、体験勧誘を増やそうと、いろんなブースで体験勧誘が行われており、全く興味がないお客様にとっては、迷惑がかかったのではないかと心配している。・　参加団体が固定化されてきている。もっと参加団体を広く募ってはどうか。・　参加者が興味あるブースだけでなく、一本の導線で全てのブースを回遊できる仕組みを考えてもいいのではないか。また、フェスタの会場を囲い、勧誘等は外のみで行う工夫も必要ではないか。・　ブースがかなり狭かった。・　出展者間での来場者の勧誘等につながるため、目標人員等の設定はいらないのではないかと思う。・　事前の会議で会場レイアウトを見たが、初出展であり、なかなか会場をイメージするのが困難だった。初めて出展する団体には、会場レイアウトの他に、会場の写真や映像があると、より会場のイメージができると思う。・　午前中は空席が目立っていた。参加者が一番集中しやすい午後の時間帯に開始時間を設定してはどうか・　トークセッションなど核になるイベントがあるのはいいと思う。舞台でのパフォーマンス、踊りや歌も楽しかった。 |

## ４　対応策

(1) 目的・考え方

　○　「何を、どのように、誰に」伝えるかを明確にして、フェスタの方向性を決める。

(2) 開催日時・場所

　※資料２で説明

(3) 集客・周知

　○　これまでの周知方法のほか、SNS等での拡散を取り入れ、広く一般に周知する。

　○　会場となる施設のホームページにも、フェスタの詳細を掲載する。

(4) 事前準備

　○　第１回実行委員会は、新年度の早期に開催する。

　○　検討事項は、期限を区切って進行管理を行う。

(5) 運営体制

　○　各団体ブースの規模については、目的や利用方法によって、可能な限り配慮する。

　○　各団体でも、ブース規模を考慮し、現状のスペースでできることを考えてもらう。

　○　体験コースをいくつか用意し、コースごとに体験できるようにしたり、体験コースをスタンプラリーに組み込むことも検討する。

○　会場の規模や参加団体数に応じて、新たな団体に参加を呼びかける。

　○　初出展の団体がある場合には、事前に前回のフェスタの状況が分かる写真等を提供し、情報の共有に努める。

○　ステージ利用については、参加者の注目が集まるような内容や構成にする。

　○　午後にステージが集中するようプログラムを調整する。